

相双地域感染症発生動向調査週報(2026年第33週)

(令和8年8月10日～令和8年8月16日)

令和8年8月20日

定点報告(上段:定点当たり／下段:報告数)、全数報告(報告数)		2026年					2025年 合計	2024年 合計
区 分	疾 病 名	30週	31週	32週	33週	合計		
定点報告	インフルエンザ	－	－	－	－	－	－	－
		0	0	0	0	584	2,558	1,616
	新型コロナウイルス感染症(COVID-19)	0.33	－	1.33	－	－	－	－
		1	0	4	0	164	1,139	3,622
	RSウイルス感染症	－	－	－	－	－	－	－
		0	0	0	0	31	156	309
	咽頭結膜熱	－	－	－	－	－	－	－
		0	0	0	0	9	78	337
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	2.50	1.00	1.50	－	－	－	－
		5	2	3	0	110	243	657
	感染性胃腸炎	－	－	1.00	0.50	－	－	－
		0	0	2	1	127	430	610
	水痘	－	2.00	－	－	－	－	－
		0	4	0	0	8	10	6
	手足口病	7.5	15.50	8.50	3.50	－	－	－
		15	31	17	7	91	15	952
	伝染性紅斑	－	－	－	－	－	－	－
		0	0	0	0	0	141	0
	突発性発しん	－	0.50	－	－	－	－	－
		0	1	0	0	18	59	182
	ヘルパンギーナ	1	2.00	2.50	0.50	－	－	－
		2	4	5	1	13	4	19
	流行性耳下腺炎	－	－	－	－	－	－	－
		0	0	0	0	1	10	13
	急性出血性結膜炎	－	－	－	－	－	－	－
		0	0	0	0	0	0	0
	流行性角結膜炎	－	－	－	－	－	－	－
		0	0	0	0	1	2	9
	感染性胃腸炎(ロタウイルス)	－	－	－	－	－	－	－
		0	0	0	0	3	16	1
	クラミジア肺炎	－	－	－	－	－	－	－
		0	0	0	0	0	0	0
	細菌性髄膜炎	－	－	－	－	－	－	－
		0	0	0	0	0	0	0
	マイコプラズマ肺炎	－	1.00	－	2.00	－	－	－
		0	1	0	2	19	42	16
	無菌性髄膜炎	－	－	－	－	－	－	－
		0	0	0	0	0	0	0
	インフルエンザ入院	－	－	－	－	－	－	－
		0	0	0	0	7	39	19
	新型コロナウイルス感染症(入院)	－	－	－	－	－	－	－
		0	0	0	0	22	56	120
	急性呼吸器感染症(ARI)	42.67	56.33	42.67	20.67	－	－	－
		128	169	128	62	5,747	8849	－
全数報告	結核	0	1	0	0	1	4	1
	レジオネラ症	0	0	0	1	4	5	3

カラー流行表示は、福島県感染症発生動向調査週報(IDWR)の表示をそのまま表示しています。

定点把握疾患	手足口病 の流行が見られます。
全数把握疾患	レジオネラ症(90代1名) の届出がありました。

インフルエンザ	報告数が増加しています。隣県でも同様の傾向が確認されており、今後の動向に注意が必要です。 通常の流行時期とは異なりますが、手洗いやうがい、冷房使用時にも適度な換気を行う等、基本的な感染対策を心がけましょう。
新型コロナウイルス感染症	相双地域及び県(県内総数)は、前週と比較して減少しました。 基本的な感染対策を徹底し、感染に注意しましょう。
手足口病	相双地域及び県(県内総数)は、前週と比較して減少しました。 ※警報中 県内各地域で報告数が多い状況が続いており、引き続き注意が必要です。手足口病は、ウイルスの感染によって起こる感染症で、夏季において小児を中心に流行しますが、大人も感染します。感染経路は飛沫感染、接触感染、糞口感染であり、感染後3～5日で口の中、手足に水疱性の発しんが現れます。予防のため、手洗いを徹底し、タオルの共用を避け、適切に排泄物を処理しましょう。
E型肝炎	本県で1例報告がありました。 E型肝炎は、E型肝炎ウイルスに汚染された水や加熱不十分なブタやイノシシ等の動物の肉を摂取することで感染し、腹痛、黄疸等の症状を生じます。予防法として、豚肉や猪肉のジビエ肉の十分な加熱や、手洗い等の衛生管理の徹底が重要です。
レジオネラ症	本県で2例報告がありました。 レジオネラ症は、レジオネラ属菌による感染症で、慢性疾患や加齢等で免疫機能が低下した方や喫煙、大量飲酒者は、肺炎を生じ、重症化するリスクがあります。気温、湿度ともに高い時期に報告が増える傾向にあり、県内では5月下旬より断続的に報告されています。菌が常在する乾燥土壌の土埃や、菌が存在する入浴施設、加湿器等の水場のエアロゾルの吸引による感染が多いので、防塵対策や施設等での菌検査を行いましょう。

お盆休みの間に帰省や旅行などで人の移動が増えたことから、感染症が広がりやすく注意が必要な時期です。体調の変化に留意するとともに、基本的な感染対策の徹底をお願いします。

・咳やくしゃみ等の症状があるときは、マスクを着用したり、鼻や口をティッシュ等で覆うなど、他の人への感染拡大防止に努めましょう。

・流水・石けんによる手洗いは手指など体についたウイルスを除去するために有効な方法です。こまめな手洗いに努めましょう。

・室内ではこまめに換気をしましょう。窓開けによる換気は、対角線上にあるドアや窓を2か所開放すると効果的な換気ができます。

・普段と体調が異なる場合には、出勤や登校を控えるなどの体調管理に留意してください。

(参考・引用)福島県感染症発生動向調査、感染症週報、2026年第33号